

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 木・3	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間の科学(胎児、子どもの病気の病態と倫理) Human Sciences (Disease and ethical problems of fetus and children)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室 102 教室	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類 人間科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:田川正人 /Eメールアドレス:mtagawa@net.nagasaki-u.ac.jp /研究室:医学部小児科教室(大学病院第一臨床研究棟8階) /オフィスアワー:毎週月曜日午前8:30~9:00(祝祭日を除く)			
担当教員(オムニバス科目等)	田川正人、岡田雅彦、本村克明、本村秀樹		
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい:ヒトは母親の体内にいる胎児の時期を通じて誕生する。それから新生児、乳児、幼児、学童と成長していく。生まれてくる時に既に重篤な病気を伴っていることもあるし、小児期にも様々な病気にかかることもある。場合によっては虐待など本来の病気とは若干異なる病態もあり得る。その中に実に様々な倫理的問題を含んでいることがある。私達は自分達の人生を送る上で、方向性に迷う出来事に遭遇することは十分にあり得る。今回は病気を通しての諸問題を様々な角度から考えることを目的とする。</p> <p>授業方法:スライド、ビデオなどの画像、映像を使った講義中心の授業</p> <p>授業到達目標:1.胎児、子どもの病気について、親の立場になって考えることができること。2.虐待など、子どもに関係する社会問題などにも興味を持つことができる。</p>			
<p>授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>授業内容(概要)</p> <p>子どもの病気を、胎児から始まり思春期、その後に至るまで、経時的に様々な疾患、病態を取り上げ一緒に議論していく。時にはビデオ、DVDなどのメディアを使って映像を紹介し、理解を補助できるように工夫する。</p> <p>第1回イントロダクション(本講義の全体を通した流れ、意義などの紹介を行う)</p> <p>第2回~第4回 田川が担当し、胎児、新生児、未熟児などの疾患、病態などを説明し、子どもにまつわる諸問題を一緒に考える。</p> <p>第5回~第7回 本村克明が担当し、性分化異常、思春期早発症など内分泌の疾患を取り上げ、病気の子ども達とその家族が置かれている状況を一緒に考える。</p> <p>第8回~第10回 本村秀樹が担当し、先天性心疾患をもつ子ども達とその家族が置かれている状況を一緒に考える。</p> <p>第11回~第14回 岡田雅彦が担当し、白血病などの血液疾患、悪性腫瘍を持つ子ども達とその家族が置かれている状況を一緒に考える。</p> <p>第15回 定期試験</p>			
キーワード	子ども、胎児、出生前診断、先天奇形、先天性心疾患、性分化異常		
教科書・教材・参考書	特になし		
成績評価の方法・基準等	授業への貢献度(30%)、レポート(70%)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			